

防災ニュースN08

野路自主防災組織事務局
発行責任者 福井太加雄
平成21年7月1日発行

「阪神・淡路大震災～

その体験を語る」

防災講座を6月18日（木）新宮会館で69名の参加のもと、人と防災未来センター 谷川三郎氏の講話を聴きました。平成7年1月17日午前5時46分マグネチュード7.3最大震度7阪神・淡路大震災で、被災者救出に携わられ体験された経験と教訓を具体的な事例を挙げながらの話しを聴き「自分たちの地域は自分たちで守る」ことが重要で、この震災で助けられた方の8割が、家族や地域の力によるものであったことを認識し、みなさんと共に防災意識の高揚に努めていきたいと強く感じました。

緊急 編そのときどうする！ ライフラインの確保！

電気・停電により電化製品が使用不能
懐中電灯、携帯ラジオなど用意しておく
電気は他に比べ早く復旧する場合が多い
復旧後は必ず安全点検を行う。
ブレーカーは電化製品の転倒、ガス漏れ
確認してから戻す。神戸では復旧1週間
かかりました。

ガス・ガス管の破損ガス漏れが家の
中や道路等の屋外発生。火災による
二次被害をお引き起こす可能性がある。
地震を感知すると自動遮断するマイコン
メーターがほとんど設置されているが
特性や使い方を理解しておく。
神戸の都市ガス復旧は約3ヶ月かかり
ました。

水道・断水すると飲み水だけでなく消火や
応急手当に支障きたす場合もあり飲み水は
家族3日分（1人1日3リットル）以上準備
生活用水としては浴槽などに貯水しておく。
下水道の破損により水洗トイレにさまざまな
事態が生じることがあるので組み立て式簡易
トイレを準備しておくといよい。
神戸では水道の応急復旧が完了したのは
約3ヶ月後、下水道は約4ヶ月後であった。

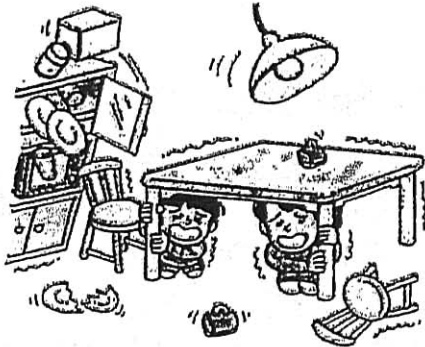
電話・断線による不通だけで
なく大量の電話が殺到してつながり
にくくなり銀行などのオンライン
業務が停止することもある。
家族の安否確認の方法を決めて
災害用伝呼ダイヤルなどの利用方法
も確認しておく。神戸の場合、
復旧宣言が出されたのは約2週間後
であった。

地震その時10のポイント

大きく揺れた時の行動

グラッときたら身の安全

大きな揺れを感じたら、まず身の安全を図り、揺れがおさまるまで様子を見る。

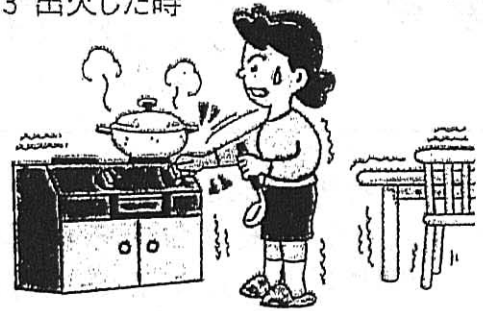


地震時及び直後の行動

すばやい消火 火の始末

火を消す3度のチャンス

- 1 小さな揺れを感じた時
- 2 大きな揺れがおさまった時
- 3 出火した時



あわてた行動 けがのもと

屋内で転倒・落下した家具類やガラスの破片などに注意する。



窓や戸を開け 出口を確保

小さな揺れのとき又は揺れがおさまったときに、避難できるよう出口を確保する。



落下物 あわてて外に 飛び出さない

瓦、窓ガラス、看板などが落ちてくるので注意する。



門や塀には 近寄らない

屋外で揺れを感じたら、ブロック塀などには近寄らない。



地震後の行動

正しい情報 確かな行動

ラジオやテレビ、消防署、行政などから正しい情報を得る。



確かめ合おう わが家の安全 隣りの安否

わが家の安全を確認後、近隣の安否を確認する。



協力し合って 救出・救護

倒壊家屋や転倒家具などの下敷きになった人を近隣で協力し、救出・救護する。



避難の前に 安全確認 電気・ガス

避難が必要な時には、ブレーカーを切り、ガスの元栓を締めて避難する。

